

社会・原発・市民運動 ご担当者様

推薦

「海はみんなのものじゃけん」に激しく同意。
声をあげること、諦めずに抗い続けること
によって必ずや変わっていくことを信じています。

——樋口英明（元福井地裁裁判長）

祝島に原発を作らせない人々に、
私たちはいつかきっと感謝することになるだろう。

——上野千鶴子（社会学者、東京大学名誉教授）

瀬戸内海のスゴサを知って
日本のオロカサを見抜く。

今からでも遅くない、海賊になろう！

——アーサー・ビナード（詩人）

目次

- はしがき 鞆の浦から祝島へ
- 第1部 潮目が見えるか
- 第2部 原発恫喝裁判
- 第3部 海におきる地上げのごとし

ご注文は **而立書房** まで
FAX 03-3292-8782

<http://www.jiritsushobo.co.jp>

而立書房 6月新刊のご案内(委託メ切 2026/6/3)

潮目を生きる

原発から海を守る祝島の住民

山秋 真 著

四六判並製256頁 本体予価¥2000+税 ISBN978-4-88059-454-5 C0036

西瀬戸内海の潮目に浮かぶ祝島（山口県上関町）。魚がとれ、ひじきが育ち、海の恵みで暮らしが成り立つこの島では、いまなお原発計画が続いている。「カネをもらうた者はモノを言えんごとなる」

「海と山がありゃあ、なんぼでも生活していける」そう語り、はね返してきた島の人びと。対し、恫喝（スラップ）訴訟をはじめ圧力をかけてくる電力会社……。祝島で続く攻防と、地方自治の現実。海とともに生きる島の、抵抗のドキュメント。

山秋 真（やまあき・しん）

神奈川県出身。ノンフィクションライター。1992年から石川県珠洲市へ通いはじめる。1993年、日本大学芸術学部卒業。以降、原発計画にゆれる珠洲と、計画に関連する裁判の傍聴に通う。2003年の計画凍結後、社会学者の上野千鶴子氏の東大大学院ゼミへ通う（05-09年）。現在は、上関町祝島へ通い、取材を続けている。著書に『ためされた地方自治—原発の代理戦争にゆれた能登半島・珠洲市民の13年』（桂書房、2007年平和・協同ジャーナリスト基金荒井なみ子賞、2008年松井やよりジャーナリスト賞を受賞）、『原発をつくらせない人びと—祝島から未来へ』（岩波新書）がある。

6月下旬発売予定

貴店番線印

ご担当

冊

潮目を生きる

原発から海を守る祝島の住民

山秋 真

而立書房

ISBN978-4-88059-454-5 C0036 予価¥2000 四六判並製